



東京情報大学入学式における 学長式辞

東京情報大学

学 長 牛久保 明 邦

平成26年度第27回東京情報大学の入学式にあたり、千葉市長 熊谷俊人様、香取市教育委員会 教育長 宮崎毅様、本学の設置者である学校法人東京農業大学 大澤貫寿理事長、東京農業大学 高野克己学長をはじめご来賓の皆様には大変お忙しい中、ご臨席を賜り厚く御礼申し上げます。お蔭様でこの様に盛大な式典が挙行できますことに、感謝申し上げます。

本日、只今入学を許可された大学院総合情報学研究科博士前期課程7名、博士後期課程2名並びに総合情報学部総合情報学科472名、3年次編入学生情報システム学科1名、環境情報学科2名計475名、総計484名の皆様ご入学おめでとうございます。

また、ご家族の皆様におかれましては、この佳き日を迎えられましたことを、あらためて御慶び申し上げます。

さて、本日入学を許可された皆さんは、大学での新たな学び舎としてこの東京情報大学を選ばれました。本学の教職員を代表して心より歓迎いたします。

私達は、皆さん一人ひとりが持つ素晴らしい素質や能力を伸ばすとともに、社会性に富む優れた人格を養い、これからの情報化社会を支えるリーダーとして活躍することができるよう皆さんと共に教育と研究を進めて参ります。そして、尊敬できる恩師に出会え、生涯にわたる良き友人をたくさん得ることができ、なにより充実した学生生活を送ったという実感を持って、皆さんが揃って卒業してくれることを心から願っております。

ここで、東京情報大学に関する歴史と本学の教育理念などを知っておいて頂きたいと思います。本学の経営母体は、学校法人東京農業大学であります。その中核となる東京農業大学は、子爵榎本武揚を創始者として1891年に創設され、我が国有数の農学系総合大学として現在に至り、本年で123年になります。榎本武揚は、幕末から明治における近代の創成期にあって世界に目を向け、わが国の未来を展望し、生まれて間もない近代国家の基礎作りと発展のために尽したばかりでなく、国際人として人類の平和と福祉のために、幾多の困難を乗り越えて多くの業績を残された人物です。その榎本の精神を礎に本学は、学校法人東京農業大学の7つ目の学校として1988年に設立され、本年で創立27年目を迎えます。本学は、「情報」を大学名に冠した我が国で最初の私立大学であり、「未来を切り拓く」を建学の精神として、フロンティア精神にあふれた情報学の先端研究と実践教育を行っています。教育理念は、「現代実学主義」です。これは、榎本武揚が唱えた「実学」の精神を継承したもので、身をもって学び、社会の発展に寄与する人物を育成するための理念をあらわ

しています。さらに、大学を人間形成の場として捉え、学生一人ひとりの個性を重んじて、感性豊かに創造性を育むことができるよう「自立と協調」を学生指導の理念としています。これらは、本学で学ぶ上で常に念頭において過ごしてほしいものです。

さて、今日から東京情報大学での学生生活が始まります。高校までの学びは、学問の基礎やルール等の知識を修得することを目的として、教科書を中心とした「覚えること」に重点を置いた「学習」でした。大学では、様々な理論を学び、それを実践しながら試行錯誤をして答えを導くことが求められます。それは、実社会における様々な課題を解決するためには、多岐にわたるジャンルを越えた知識とともに、現場の経験や先人達の知恵を応用することが求められるからです。これが大学における「学問」という事です。本学では、実社会に直結した様々な課題解決のための教育研究に力を注いでいます。

情報化社会は、「日進月歩」ならぬ「秒進分歩」の凄まじいスピードで変化を遂げています。この劇的な変化に伴う社会的要請や皆さんの興味や関心に積極的に応えるために、総合情報学部総合情報学科は12コース制による教育研究を展開しています。1、2年次には、情報学のエキスパートを養成するための科目群が配置され、すべての学生が「総合情報学」の基礎知識を学びます。このほか社会人基礎力を養うための学部共通の科目群、卒業後の進路を支援するためのキャリアデザイン科目群を設置しています。入学後の履修科目選択の際には、将来の進路、コースを意識して科目を選択するよう心がけて下さい。

3年次からは、情報学を応用した専門コースが用意されており、いよいよ各コースで専門領域の教育が開始されます。その専門コースは、心理・教育、スポーツマネジメント、起業・商品開発、会計・金融、社会コミュニケーション、CG・ウェブ、映像・音響、ちば地域構想、地球・自然、システム開発、ゲームアプリケーション、ネットワーク・セキュリティと文系から理系に及ぶ幅広い領域に及んでいます。皆さんは最終的には、各コースに設置された研究室を選び、少人数で個性ある教授陣による直接指導により、専門性を深く追求することになります。更に、3年次における研究室活動は、必修科目である「プロジェクト研究」による研究が中心となるでしょう。「プロジェクト研究」は、複数のコースが横断的に研究テーマを設定し、社会や民間企業において解決しなければならない様々な課題に取り組みます。時にはキャンパスを飛び出して調査や研究を行うことも多々あるでしょう。こうした学外での他流試合を通じて実社会に通用する「真の実力」を養っていきます。最終年度の4年次では、各自が卒業論文作成のための研究テーマを設定し、大学での教育研究の集大成である卒業論文を作成します。このように総合情報学部の教育研究プログラムは、情報学のエキスパートと専門性を有するエキスパートの「ダブルエキスパート」の養成を目指しています。

また、大学院では、情報化社会に貢献できる研究者や高度専門技術者を養成することを目的としています。そこで、大学院に入学された皆さんは、情報に対する多面的なアプローチから研究に取り組み、学問における精進とともに自ら定めた研究テーマを探求することに努力し、大いなる成果をあげられることを期待しています。

これから卒業するまでの時間は、社会人として「独立立ちする」ための準備期間です。そのため、本学では、皆さんを「独立した人格者」言わば「大人」として扱い、「社会人としてふさわしい人格を完成させる」ことに重点を置いています。そこで、学生生活をスタートさせ、真っ白な紙に自分の人生設計図を描くために「大学において自分は何をなすべきか」、「自分は何を目指すのか」という目標を定めて下さい。そして、自らのオリジナルの設計図をこの4年間で完成させて下さい。そのためには、教室での座学中心の学習ばかりではなく、実習や研究室の活動へ積極的に参加したり、さらには「健全な肉体に健全な精神が宿る」というが如く、大学祭である翔風祭等のイベントやクラブ活動等の課外活動を通じて心身を鍛錬するとともに、将来にわたって信頼できる数多くの友人を作ってください。充実した学生生活には、文武が車の両輪のごとく機能することが重要です。今後皆さんが、理想に向かって一段と高い目標を掲げ、悔いの残らぬよう大学生活を送られることを願っています。

最後に、皆さんの中には、今までと違った生活環境の中で大学生活を始められる方も多いと思います。一日も早く大学に溶けこみ、規則正しい自分の生活パターンを確立されるとともに、健康には十分に留意され大学生活をエンジョイして頂きたいと思います。

本日の入学式にあたり、新入生の皆さんの新たなる決意と目的意識をもった東京情報大学での大学生活を期待し、式辞といたします。